

令和元年度 第2回 大垣市障がい者の暮らしを支える協議会 議事要旨

令和元年7月26日（金）

13：30～14：45

大垣市役所3階 合同委員会室

出席者：18名 欠席者：9名

- 1 福祉部長あいさつ
- 2 大垣市第三次障害者計画の事業実績及び事業計画について（事務局）  
→別紙資料1・資料2による
- 3 大垣市第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画の事業実績及び事業計画について（事務局）  
→別紙資料1・資料3による

＜大垣市第三次障害者計画の事業実績及び事業計画について＞

・インテグレーションを一步踏み込んで、インクルーシブと明記している。具体的にはどのような活動を進めているのか。

→ 現在の学校での取り組みとしては、スマイルブックの引き継ぎの実施、支援員を配置し学級のなかで一人ひとりにあった支援をしていくなどがある。

インクルーシブ教育の視点を取り入れて実施しているのがユニバーサルデザインの教育。例えば黒板をすっきりさせる、余分な音を鳴らさないようにするなど、特に配慮が必要な子が学習に集中できるように配慮することが、すべての生徒に学びやすい環境づくりにつながっている。

＜大垣市第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画の事業実績及び事業計画について＞

・目標達成されていないことがいくつか見受けられた。ニーズがあるものもあると考える。目標が高すぎるのか、ニーズの掘り起こしがまだできていないのか。

→ サービスによってはニーズの把握と目標が近いものもあれば、市に限らず、県・国も目標が乖離しているところが問題。今後見直しをしていきたい。

・地域生活支援拠点等整備が未整備であるのはやむを得ないものなのか、今度、どのような方向性を持っているのか。

→ 緊急時の受け入れ体制が一番の課題。受け入れ施設を探り、面的なつながりで体制を整えたい。

・障害者施設入所支援施設の短期入所は空きがなく、緊急受入れが難しい状態。現状を踏まえているのか。

→ 受け入れ施設がないのが現状。介護施設等共生型も推進し、検討していく。

・保育所等訪問支援が未達成であるが、困っている保育者への支援はどのようなになっているのか。

→ 保育所等訪問支援は保護者からの要望が出て実施するもの。保育園の保育士への支援は、障がい福祉課発達支援グループの専門職が保育所等の訪問支援を行い、保育所等の課題等を聞き取り、相談対応支援をしている。

・民間保育園への支援については何か行っているのか。

→ 民間保育園からの要望があれば、ひまわり学園職員が訪問し支援へのアドバイス、また必要な場合はひまわり学園への通所につなぐなど連携をしている。

・基幹相談は設置目標のみで達成となっているが、サービスにつながらない相談はあるのか。県内の市町において半数以上整備されてきた。基幹相談機能の働きを見える化するとよい。

→ サービスにつながらない相談はある。見える化して提示できるようにしていきたい。

・居宅訪問型児童発達支援について、ニーズを把握した上で新規事業参入を働きかけるとあるが、現時点でニーズを把握しているのか、どのような働きかけをしているのか。

→ 新しい事業である。今後、相談支援のなかでニーズがでてくると考えている。

・居宅訪問型児童発達支援利用について、相談支援専門員より相談があり事業実施を検討した経緯があるが、人的な問題が高く、また利用希望者が少ないことから事業実施に至らなかったことがある。

・重度の障がいを持つ家族は、家族で抱え込むことが多く、困っていても相談に行くことができない状態である。相談しやすい環境づくりをお願いしたい。

・昨年度の協議会において、放課後等デイサービス事業は増加しているが、受け入れに困

るような子が発生している。事業所の質を上げる必要があると話していたがどのようになっているか。

→ 市内の事業所のサービスの質を上げる、まず現状を知るということで、西濃発達支援センターの方と障がい福祉課と一緒に事業所訪問を実施している。

・困ったことがあっても、知らない人に相談するのは勇気がいること。第三者に相談して困り感を訴えるハードルの高さをいかに下げていくかが課題。そうした方の背中を押せるような支援があるとよい。

・行政政策目標では、地域共生社会を掲げているが、現場では差別がある。いろいろな手法で地域の理解を得ることを実施していく必要がある。どう実施していくか一緒に考えていただきたい。